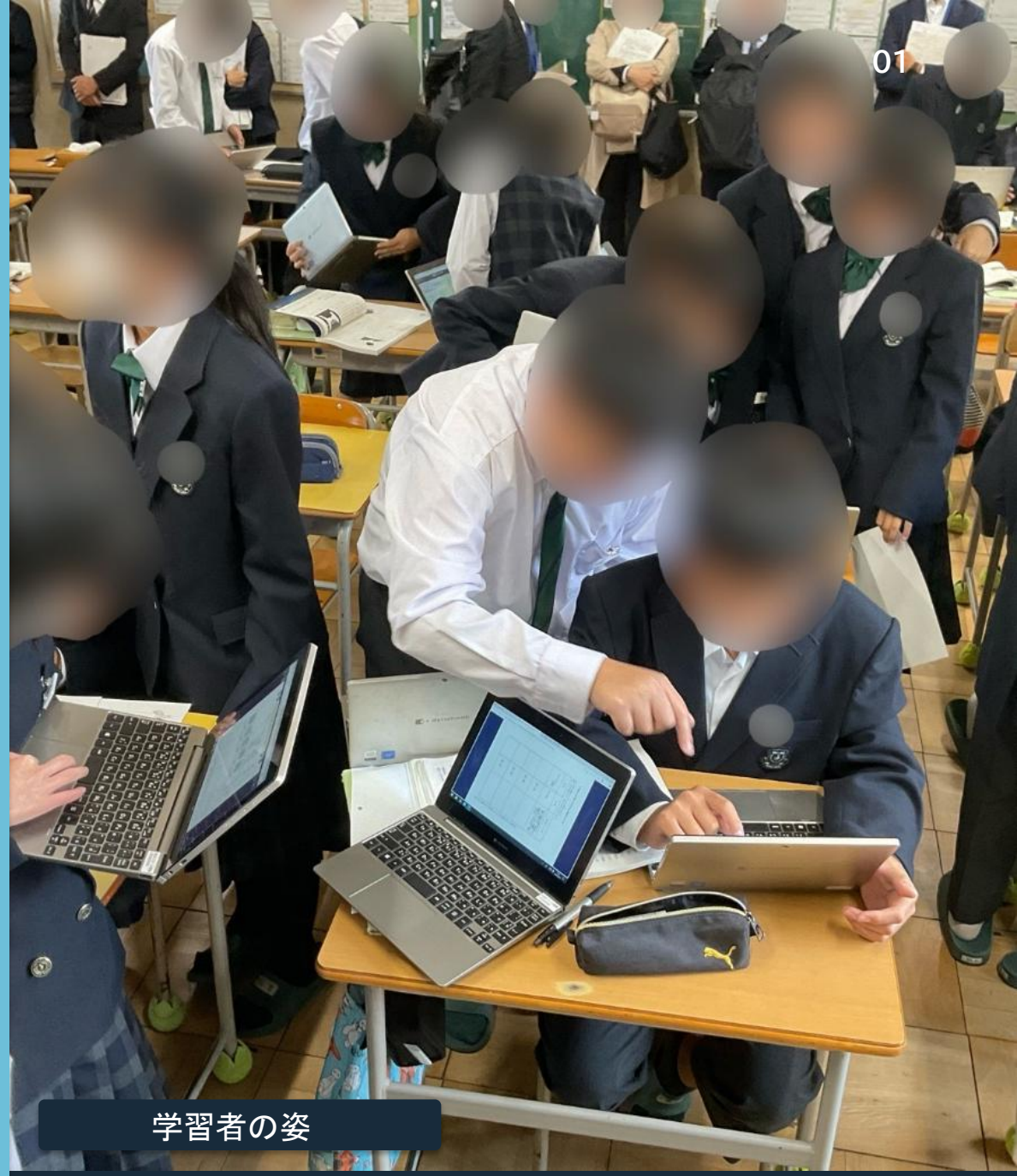
令和8年度大阪府SE事業
「情報活用能力をはぐくむ」モデル校
大阪府域公開授業＆実践報告会

頑張Ring
Active Learners

自己実現のために、
自ら学びに向かい努力し続ける生徒

情報活用能力 × 学びの自己調整
学びの主体を、学習者へ。
～学習者の自己実現にむかう力～

2026.11.04　八尾市立成法中学校



学習者の姿

ABOUT SEIHO｜学校概要

めざす学校像「成法中学校でよかったと思える魅力ある学校」

―「つながり」「工夫」「前進」を大切に―



01 学校名 八尾市立成法中学校



02 クラス・生徒数

1年生	5クラス	153人
2年生	5クラス	176人
3年生	4クラス	141人
合計	14クラス	470人

03 校訓 友愛・自立



RESEARCH JOURNEY｜研究の歩み

ICTの活用から、自ら学び続ける力へ。

端末を使うこと自体が目的ではない。学び方を選び、必要に応じて選び直す。

01 まず、使ってみる

タブレットを授業に取り入れる

→

02 当たり前に使う

日常の学習手段として
定着させる

→

03 必要に応じて選ぶ

ICTも紙も人も、学び方の
選択肢に

2026年度の焦点

**「選ぶ」から、
「学びを見取り、選び直す」へ。**


学習者の姿

資料：2025年12月 研究フォーラム報告資料（再構成）

LEARNER PORTRAIT｜めざす学習者像

「頑張Ring」がめざす学習者の姿

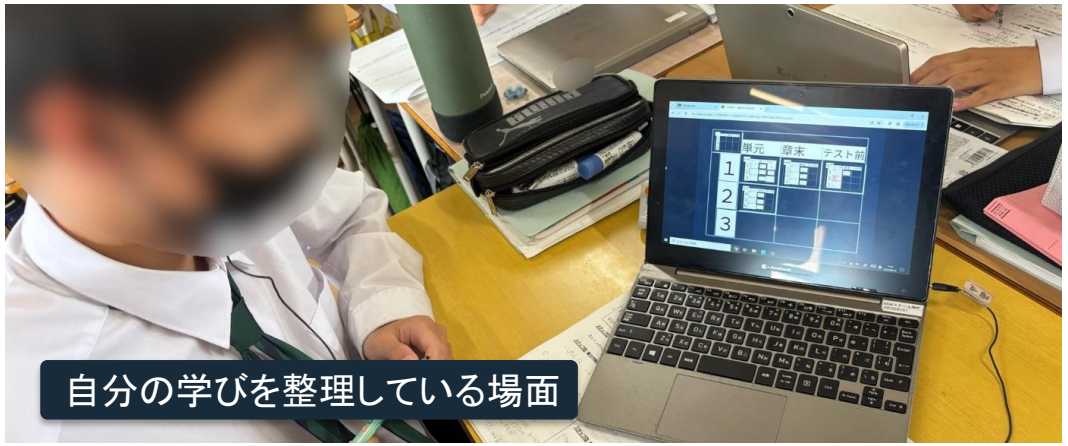
自己実現のために、自ら学びに向かい、努力し続ける生徒

主体 自分で見通し、選ぶ

協働 他者と考えをつなぐ

挑戦 難題に向かう

省察 学びを見直す



自分の学びを整理している場面

情報活用能力
情報や情報技術を選び、吟味し、活用する

学びの自己調整
理解・進捗を見取り、方法を選び直す

各教科の深い学びを通して、頑張Ringをはぐくむ

※情報活用能力は、学びの自己調整の基盤となる能力。

LESSON DESIGN｜授業のデザイン

「学びを委ねる」を支える、3つの設計

学びを委ねるためには、見通し・選択肢・支援を教師が設計する。

01
見通せる

単元のゴール・評価規準を共有

学習計画表・ルーブリック

02
選べる

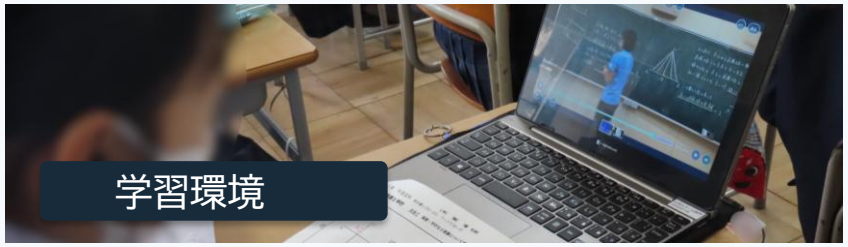
複数の学習方法・教材を準備

解説動画・教科書・ICT・生成AI・他者

03
支えが届く

つまずき・進度・意欲を見取る

個別支援・援助要請・振り返り


学習環境

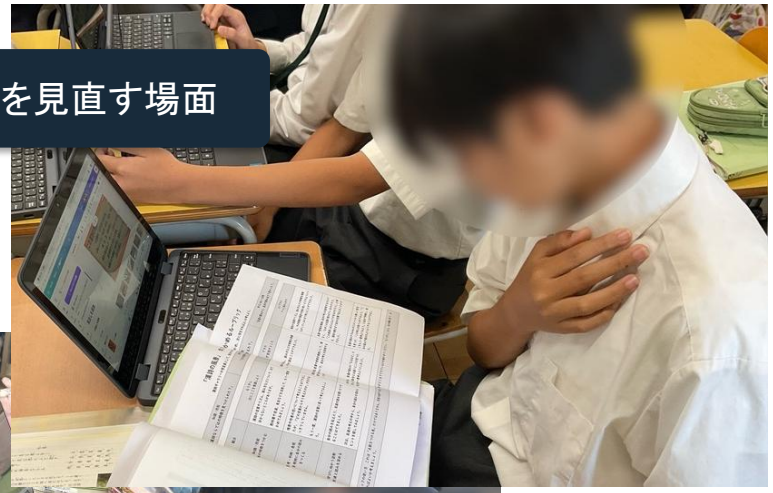
教師の働き

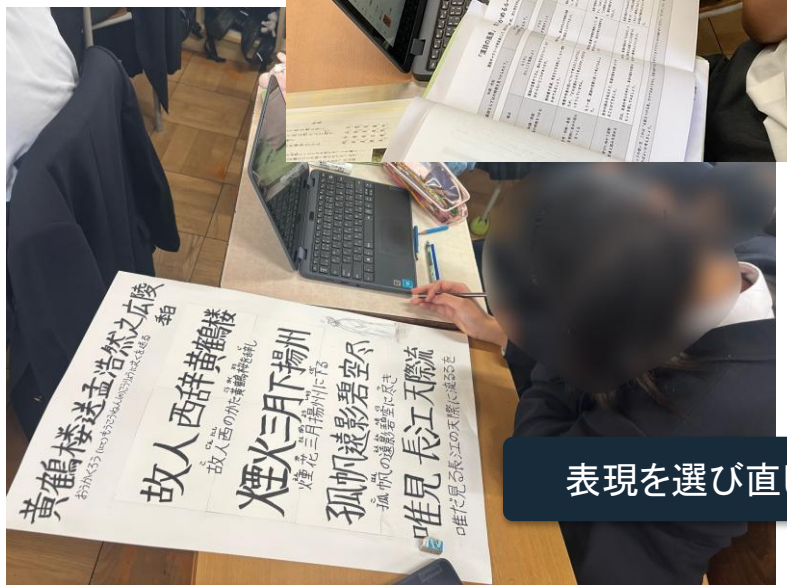
「支える・委ねる・つなげる」

CLASSROOM PRACTICE｜授業実践

授業で見えてくる「頑張Ring」

ルーブリックを見直す場面





表現を選び直している場面

学習の自己調整サイクル

01 **見通す** 目標と課題、時間配分を確認

02 **学ぶ** 解説・問題・仲間の考えを活用

03 **確かめる** 分かったことと、分からないことを把握

04 **選び直す** 必要な課題や学習方法を調整

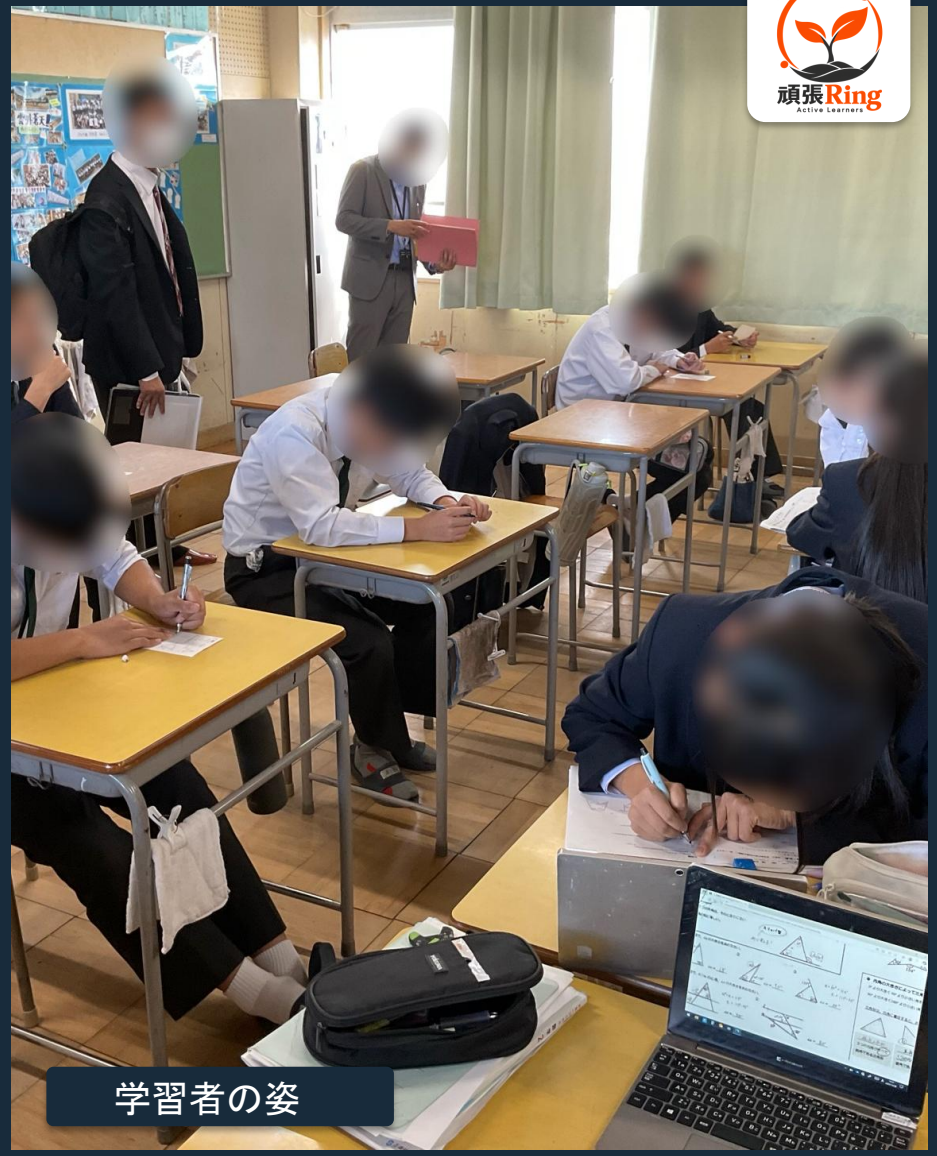
ただ速く進むのではなく、理解に応じて学びを調整する。

頑張Ring ｜ 学習者の声

「頑張Ring」は、学習者にどう映っているのか。

良さも、難しさも。学習者自身の言葉から。

とある3年生が語る、3年間の学び方の変化



学習者の姿

LEARNER VOICE

「頑張Ring」を語る、学習者の声



LEARNER VOICES｜声から見えてきたこと

学習者が語る「可能性」と「課題」

成長の自覚

“3年生になったら、それがもう当たり前として定着している

課題の自覚

“人によって差がつきやすいっていう、格差ができやすいっていうのはあるかもしれません



頑張Ringの育成と、一人ひとりの学びの保障を両立する。

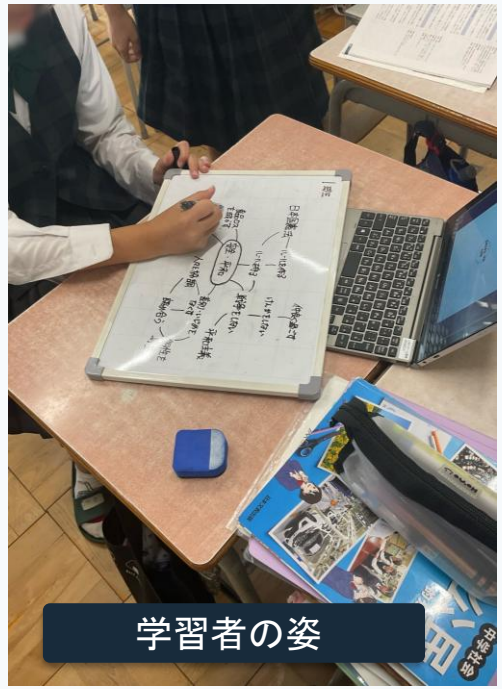
※学習者一人ひとりの進捗、つまずき、学習手法など、学習者の学びを正確に見取り、授業者がどう支援していくか。

EVIDENCE｜成果を確かめる

頑張Ringの育ちをみるデータ

学習者の実感と、アンケート・学習成果から見る変化。

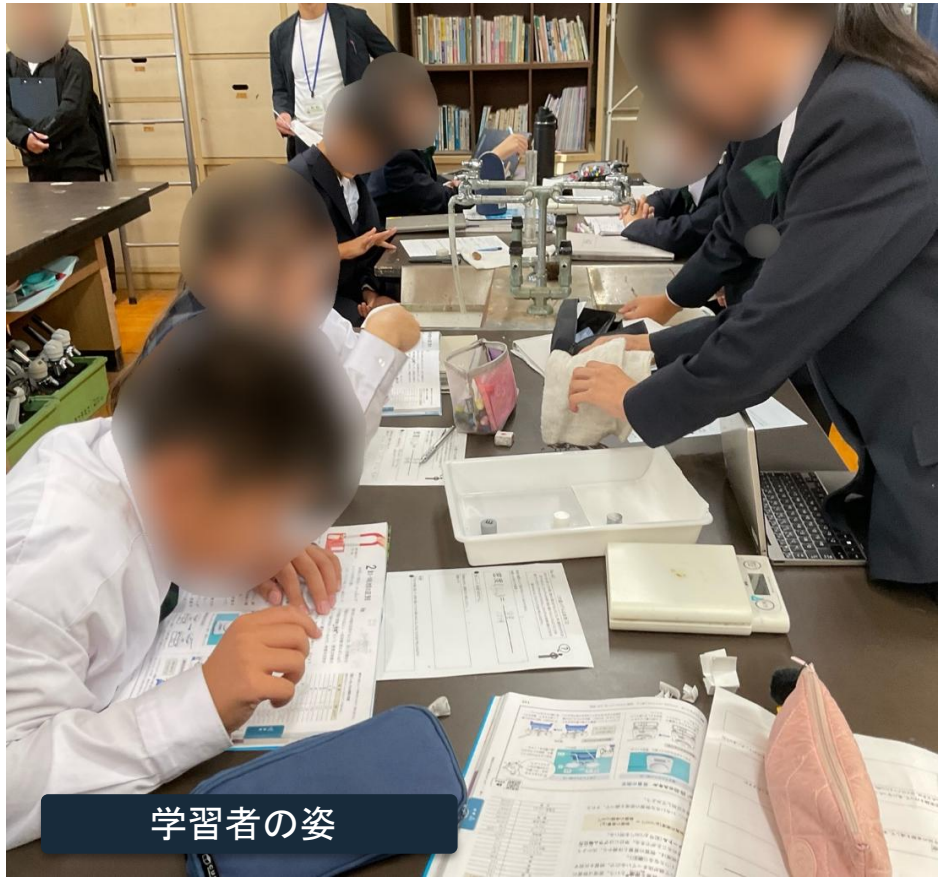
生徒アンケートの結果や学習成果の
数値に関しましては、実践報告会当日に
共有いたします。



学習者の姿

TEACHER AGENCY｜授業者の働き

頑張Ringを支える、授業者の指導性


学習者の姿

学習者が自分で学べるように、
必要な支えを用意する。

01 **解説を参照する**
ロイロノートにある解き方を読む

02 **友だちと考える**
自分とは違う考え方に出会う

03 **授業者に尋ねる**
専門的な説明・個別支援を受ける

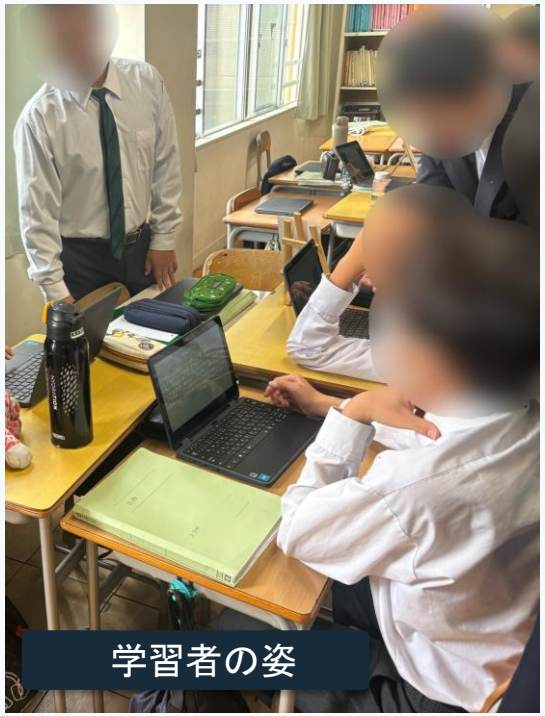
授業者は「教えない」のではなく、学習者の状態に応じて支え方を変える。

ACROSS SUBJECTS｜教科横断

教科を越えて「頑張Ring」をはぐくむ

情報活用能力を基盤に、各教科で「主体・協働・挑戦・省察」の姿を引き出す。

1	国語	本文・体験・AIを照らし合わせ、根拠をもって解釈する
2	数学	理解度を確かめ、課題や学習方法を選び直す
3	理科	課題の進度を見取り、資料や他者の考えを生かす
4	社会	教科書・資料・AIの情報を検討し、変化を説明する
5	英語	AIの助言を吟味し、相手に伝わる英語に改善する


学習者の姿

11月4日公開授業の各教科授業案より

頑張Ringを、教室の中に。

01 **選ぶ** どんな目的で、その情報・学習方法を選んだか

02 **つなぐ** 他者や資料を通して、考えがどう変わったか

03 **調整する** 理解や進度を確かめ、次の一歩をどう決めたか



学習者の姿

自分で学ぶ。でも、独りでは学ばない。

見えてきた成果も、支援が必要な場面も。ぜひ一緒に考えてください。